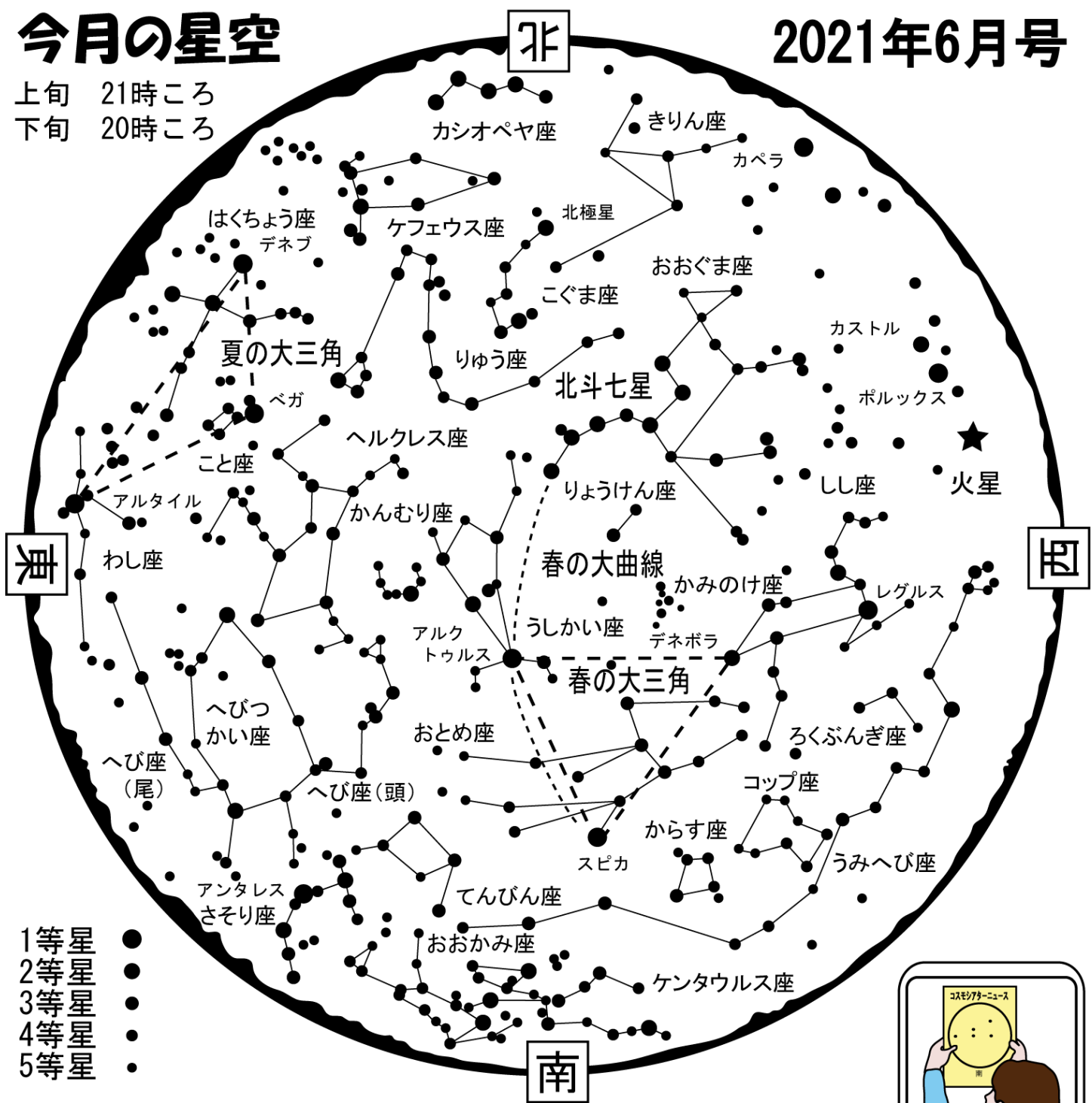


コスモシアターニュース

今月の星空

2021年6月号

上旬 21時ころ
下旬 20時ころ



今月の惑星の動き

- 水星：月末の明け方、東北東のたいへん低い空に見えます。明るさは1等星です。
- 金星：夕方、西北西のたいへん低い空に見えます。明るさは-4等星です。
- 火星：夕方、西の空に見えます。明るさは1.5等星です。
- 木星：明け方前、南東の空に見えます。明るさは-2.5等星です。
- 土星：真夜中すぎ、南東の空に見えます。明るさは0.5等星です。



今月の月の満ち欠け

下弦：2日(水) 新月：10日(木) 上弦：18日(金) 満月：25日(金)

1日(火)、明け方前、南の空で月と土星が並んで輝く

1日(火)の午前0時ころほぼ半分に欠けた月が昇ってきます。この月から少し離れた、右上に輝くのが、土星です。土星は1等星ですので、肉眼でもよく見えるでしょう。その後、明け方前には、月と土星は南の空に移動します。

2日(水)、明け方、南東の空で月と木星が並んで輝く

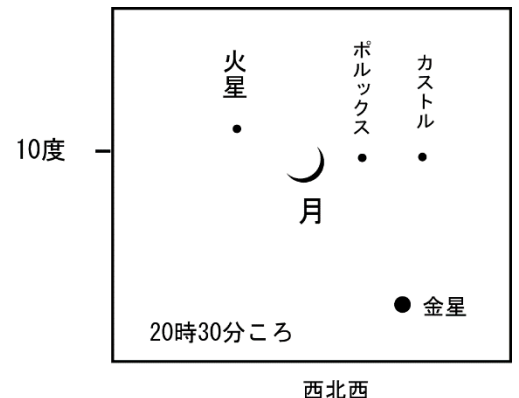
2日(水)の月の出は、午前1時ころになり、ほぼ半分に欠けた下弦の月となります。この月と同じころに、東南東の空に昇ってくるのが木星です。月を目印にすると、少し離れた左側になります。木星は、-2.5等星で、1等星の20倍程度の大変明るい星なのですぐに見つかるでしょう。昇ってくる午前1時ころは高さが低いのですが、明け方前の午前3時ころには、見やすくなるでしょう。

12日(土)、西北西の空で、月と金星が並んで輝く

空が暗くなる20時ころ、西北西の低い空に三日月が輝いています。この三日月のすぐ下に輝くのが、金星です。高さが低いので見つけにくいかもしれませんが、天気恵まれれば簡単に見つかるはず。ただし、見晴らしがいい所でないと見えないので、西から北西方向の地平線付近に障害物がないところで観察してください。またすぐに沈むので20時30分ころまでに観察してください。

13日(日)、西北西の空で、月と火星が並んで輝く

空が暗くなる20時ころ、西北西の空で月と火星が並んで輝きます。火星の場所は、月のすぐ左上です。この日は、月のすぐ右側に、ふたご座のポルックスが見えています。火星よりポルックスが明るいので、こちらが先に見つかるでしょう。なお、火星とポルックスは、同じようにオレンジ色の星なので、注意して観察してください。この接近は、空が暗くなる20時30分ころが見ごろになるでしょう。



25日(金)、ストロベリームーン

6月の満月を、ストロベリームーンと呼びます。このころに、イチゴの収穫時期を迎えるから、高さが低く、大気の影響で、いつもより赤く見えることが多いなどの、理由があるそうです。6月の空は梅雨の時期で、水蒸気が多く、空がぼんやりと白くなるが多くなります。このため、月もぼんやりと見えるが多くなります。さて、今年のストロベリームーンはどんな色に見えるでしょうか？月の色が変わって見えるのは、昇り始めの20時30分から21時ころです。月が空高く昇ると、白色になるので、21時ころまでがチャンスです。月の見える方向は、東南東の空です。高さが低いので、見晴らしがいい所でご覧ください。

28日(月)、深夜の南東の空で、月と木星が並んで輝く

今月2回目の月と木星の接近です。1日(火)の未明の接近より昇るのが早くなっています。見やすいのは、28日(月)の深夜23時以降の南東の空です。高さはあまり高くないのですが、月のすぐ左に木星が輝き、目につく存在となるでしょう。なお、前日の27日(日)の深夜は、月の上側に土星が輝きます。しかし、月が大変明るく土星はあまり目立たないでしょう。

春の星空のみどころ

6月になっても、まだ夏より春の星が南の空高く輝きます。右の図は21時ころ、南の空を見た時の様子です。左が東、右が西になります。春の星座の中で最も明るい星が、うしかい座のアルクトゥルスです。この星は、21時ころ東の空高く見えています。

このアルクトゥルスを目印に、南の空を眺めると、右下におとめ座のスピカ、右側にしし座のデネボラが見つかります。そして、これらの星を図のように結ぶと、春の大三角が完成します。なお、三角の星の中で、デネボラは少し暗めの星なので、分かりにくいこともあります。いっぽう、北の空には、北斗七星が輝いています。この先の星の並びを結んで南側に延びていくカーブを、春の大曲線と呼びます。春の大曲線の途中のアルクトゥルスとスピカは、明るく目につく星で、春の夫婦星と呼ばれています。

最後に、春の大曲線をさらに右に伸ばすと、からす座の星の並びにぶつかります。4つの星はあまり明るくはありませんが、比較的に見つけやすい星の並びになっています。

